

京都中部総合医療センター 新棟整備基本計画書

【概要版】

令和4年9月

国民健康保険南丹病院組合

新棟整備方針

■ 基本理念

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され信頼される病院を目指す。

■ 基本方針

- 1 常に患者さんの立場にたち、権利を尊重して医療を行います。
- 2 地域医療支援病院として地域の医療、介護や福祉等との連携を推進します。
- 3 救急医療体制を充実し、いつでも安心して受けられる医療を目指します。
- 4 集学的医療の提供を推進し、地域で完結できる高度ながん医療を行います。
- 5 チーム医療を強化し、医療の質や安全性の向上のため、全ての職員が資質の向上に努めます。
- 6 公営企業としての役割を果たすため、経営の効率を高め、健全な経営に努めます。

■ 新棟整備後の病院が目指す姿（コンセプト）

「南丹医療圏の砦」として、地域の安全・安心を守り続ける病院へ

① 地域住民の安全・安心を守る病院

南丹医療圏の拠点病院として高度急性期機能・救急医療・高度専門医療・小児周産期医療を強化
回復期機能・在宅支援機能の充実により地域包括ケアシステムを推進

② 地域医療連携の核となる病院

地域医療支援病院としての地域包括ケアシステムの中心的役割を強化、AI 技術を取り入れた ICT
化の促進

③ 災害・感染症に強い病院

災害拠点病院としての役割を維持・新興感染症への診療体制強化

④ やりがいを持てる魅力ある病院

人材の確保とマグネティズムの育成・医療従事者への研修センター整備

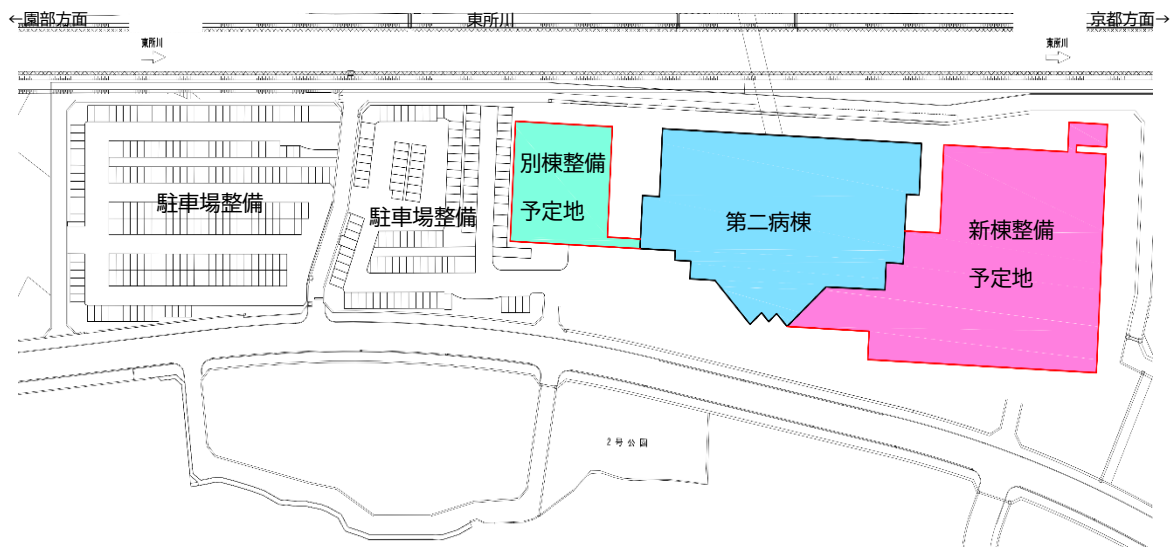
⑤ 将来にわたって地域を守り続ける病院

安定した経営基盤の確立

■ 新棟整備方針

- ・本館診療棟は建築から45年が、第一病棟は32年が経過しており、いずれも施設の老朽化が著しく部分改修では対応が困難となっていることから、今回、本館診療棟側エリアの施設を全面的に移転し、建替えるものとします。
- ・建替え場所については、現地での建替えが敷地面積上の制約、来院用駐車場の確保、近隣騒音等の問題があり極めて困難であることから、第二病棟側エリアへの全面的な移転建替えを行うこととします。
- ・建替え場所については、八木駅西口ロータリーからの利便性から第二病棟東側に新棟を建設します。また一部機能（腎センター・教育研修センター・院内保育所等）を有する別棟を第二病棟西側に建設します。
- ・新棟整備に合わせて、既設の第二病棟の改修工事を実施し、施設の一体的整備を図ることとします。
- ・医師宿舎や職員用駐車場については、周辺敷地内に別途整備することとします。
- ・建替えに伴い必要となる用地について、第二病棟周辺において建設用地及び来院用駐車場用地に必要な約20,000㎡の用地を取得するものとします。

計画敷地及び建物配置図





新棟整備の概要

■ 病床数

新棟整備における病床数については、基本構想での将来推計やそれを踏まえた方向性*に基づき、以下のとおりとします。

	新棟開設後	現状（許可病床数）
一般病棟（高度急性期・急性期）	297 床 （うち ICU8 床）	347 床 （うち ICU8 床）
回復期リハビリテーション病棟	51 床	51 床
地域包括ケア病棟	52 床	52 床
感染症病床	4 床	4 床
結核病床	10 床	10 床
合 計	414 床	464 床

* 基本構想の中で行った医療需要推計に対して、一般病棟は稼働率 85%程度を想定して算出、回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病棟は、推計上現状の病床数を超えることから、現状の病床数としました。

■ 診療科構成

診療科構成については、現在の 31 科を維持していきます。

内科／外科／整形外科／呼吸器内科／小児科／耳鼻咽喉科／眼科／産婦人科／放射線科／皮膚科／歯科／泌尿器科／精神科／麻酔科／リウマチ科／歯科口腔外科／循環器内科／小児外科／脳神経外科／心臓血管外科／呼吸器外科／消化器内科／血液内科／内分泌・代謝内科／腎臓内科／脳神経内科／リハビリテーション科／病理診断科／肝臓内科／消化器外科／乳腺外科

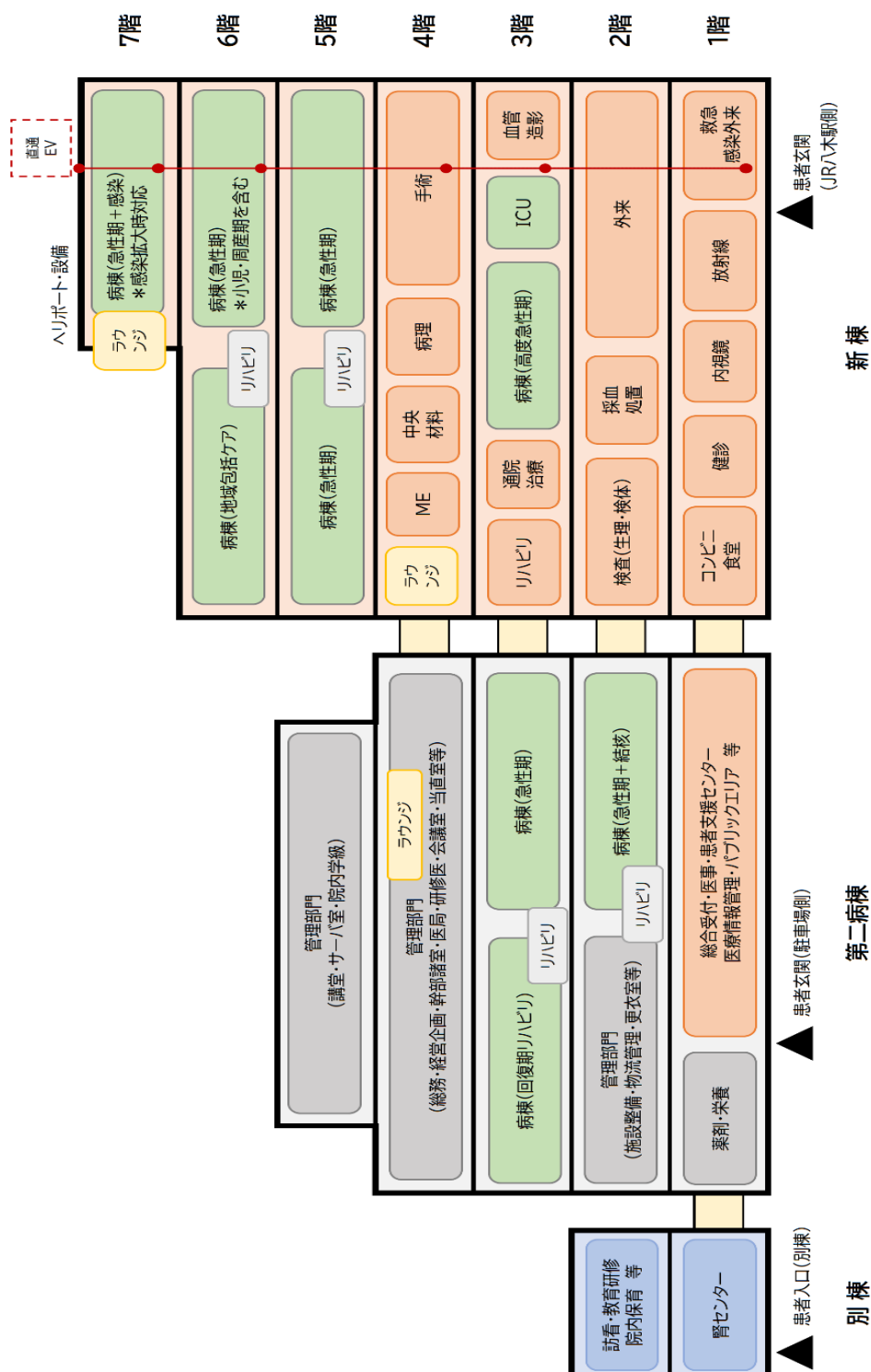
■ 施設規模

- ▶ 所在地 南丹市八木町八木野條（換地処分完了後に所在地名変更）
- ▶ 敷地面積 約 30,000 m²（うち新規取得面積 約 20,000 m²）
- ▶ 施設の規模 新 棟 7階建 約 23,000 m²
第二病棟 5階建 約 14,800 m²
別 棟 2階建 約 2,500 m²

*ただし事業費等との兼ね合いにより、想定施設規模は変動する場合があります。

■ 部門配置構成

新棟整備後の部門配置構成については、以下のとおりを基本とします。また詳細は部門別基本計画に記載のとおりとします。いずれについても設計段階において、技術的課題を含めて検討し精査することとします。



* この部門配置はイメージであり、実際のゾーニングは設計段階で決定します。

■ 整備手法

昨今の医療や社会を取り巻く環境が大きく変化している中で、今後、設計・施工を進めるうえでそうした変化に対応すべく必要となる変更等にも工事費等を見据えたうえで柔軟に対応しつつ着工以降の変動要素を少なくすることが特に重要であります。

そうした観点から、各段階での状況を踏まえた本院の意向を反映していくため、今回は、設計施工分離方式（従来方式）を採用することとします。なお、設計は基本設計と実施設計を一括発注とします。

■ 新棟整備スケジュール

新棟整備事業のスケジュールについては、以下のとおりとします。令和7年度末の新棟建設工事の完了、令和8年度当初の新棟開設を目指します。またそれに合わせて別棟の建設工事、既存施設の第二病棟の改修工事及び周辺整備工事等を行います。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
基本構想						
基本計画						
基本設計						
実施設計						
新棟建設						
新棟開設						
別棟建設						
別棟開設						
既存改修						

■ 新棟整備事業費

基本計画段階での概算事業費については、以下のとおり見込んでいます。今後、設計等の進捗や資材等建築動向、病院経営状況を踏まえて精査更新を進め、事業費の縮減に努めていきます。

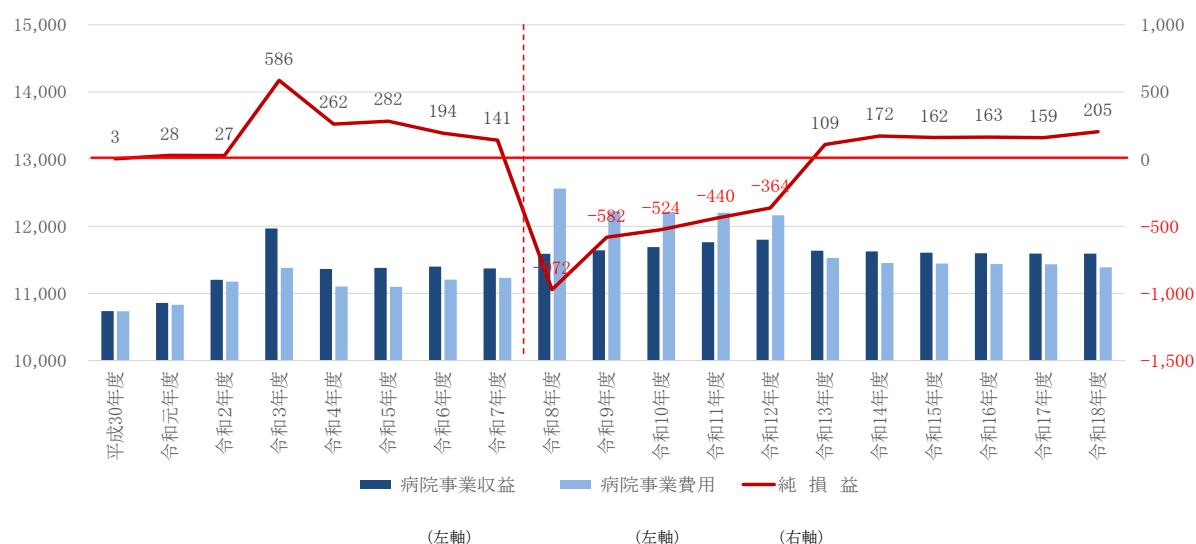
項 目	概算事業費
建築工事費	約 127 億円
設計監理費	約 6 億円
用地取得費	約 10 億円
周辺整備費	約 4 億円
医療機器等整備費	約 38 億円
解体費	約 5 億円
合 計	約 190 億円

■ 事業収支予測

基本計画段階での事業収支予測については、これまでの当院の経営実績を参考に、将来患者数推計及び診療単価に基づいて各年度の状況は以下のとおりです。なお、今後も毎年度収支予測の見直しを行うこととし、経営の健全性が引き続き維持できるよう努めていきます。

【収益的収支の推移】

単位：百万円



【資金収支の推移】

単位：百万円

